

2021年2月3日

報道関係各位

公益財団法人 笹川スポーツ財団

笹川スポーツ財団 スペシャルサイト『スポーツ歴史の検証』
ー コロナ後の「脱皮」を目指す社会に、日本野球界はどう寄り添うべきなのか ー
第97回 齊藤 惇 氏

(一般社団法人日本野球機構会長、日本プロフェッショナル野球組織コミッショナー)

「スポーツ・フォー・エブリワン」を推進する笹川スポーツ財団（所在地：東京都港区赤坂 理事長：渡邊一利）では、日本のスポーツの歴史を築かれてきた方々のお話をもとにスポーツの価値や意義を検証し、あるべきスポーツの未来について考えるためのスペシャルサイト「スポーツ歴史の検証」を掲載しています。

現在は、2020年東京オリンピック・パラリンピックを控えスポーツ界と新型コロナウイルス感染症をテーマにインタビューを行っています。シリーズ第97回の今回は、一般企業で経営に携わられたのち、日本プロフェッショナル野球組織コミッショナーに就任された珍しい経歴の持ち主、齊藤惇氏にご登場いただきます。

スポーツとはなじみがないと語る齊藤氏ですが、母校の済々黌高校（熊本県）が1958年春の選抜高校野球大会で初優勝した際の主将が小学校の同級生であるなど、野球とは不思議な縁がありました。また、会社員時代には野球大国であるアメリカにも駐在しています。本インタビューでは、こうした背景や経験から得られた知見に基づき、国民文化としての野球のありかたをアフター・コロナ社会への展望と併せてお話いただきます。

「野球は優しく、たくましい日本社会構築のリーダー役に」 齊藤 惇 氏

【公開日時】2021年1月27日（水）10:00 公開

【URL】https://www.ssf.or.jp/ssf_eyes/history/interview/097.html

スポーツ歴史の検証 で検索ください！



【主な内容】

- コロナ禍で2度の延期となったプロ野球開幕
- 感染対策の軸となったJリーグとの連絡会議
- “打撃の神さま”を介した野球との縁
- プロ野球に求められる“国民的文化”としての姿
- 社会に求められる文化としての形

《プロフィール》

齊藤 惇（さいとう あつし）氏

1939年生まれ、慶應義塾大学商学部卒。野村証券にて国内外でビジネス分野での経験を積み、1995年、同社の代表取締役副社長に就任。その後さまざまな会社の取締役を歴任し、2017年に一般社団法人日本野球機構会長および日本プロフェッショナル野球組織コミッショナーに着任、現在に至る。

佐野 慎輔（さの しんすけ）氏（インタビュアー）

1954年生まれ。産経新聞客員論説委員、笹川スポーツ財団理事／特別上席研究員。スポーツ記者を30年以上経験し、日本オリンピックアカデミー理事、野球殿堂競技者表彰委員を務める。

<スポーツ歴史の検証>概要

【企画制作】公益財団法人笹川スポーツ財団

【後援】スポーツ庁、東京都、公益財団法人日本スポーツ協会、公益財団法人日本オリンピック委員会ほか

【特別協力】株式会社アシックス



この件に関するお問合せ先
 笹川スポーツ財団 広報担当：竹下、清水
 TEL：03-6229-5300 info@ssf.or.jp